

<全体分析>

試験時間

90 分

解答形式

VIIとVIIIが記述式で、それ以外はマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

・過去4年の長文3題の総語数は、「2,390→1,985→2,523→2,533」となっており、増加傾向はつづいている。長文3題以外にも読解系の問題が4題あり、全体的な英文量は多いので、時間配分には注意すること。

・過去4年の客観式の設問数は、「44→47→45→47」となっている。

出題の特徴

・2017年度以来出題されていなかった中文内容一致問題が2020年度に復活し、大問数が7から8になり、このパターンを2023年度も踏襲している。

その他トピックス

・長文問題での「タイトル選択」は2022年度では出題されなかったが、2023年度では大問IIIで出題されている（2021年度は長文3題とも、最後の設問が「(タイトル選択に近い) 主題選択」だった）。

・長文問題の「内容一致」には、推論させるものや全体の要約に近いものも出題されている。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「米国が追求する民主的な多民族社会」 (875 words)	空所補充、同意表現選択、内容説明、内容一致（推論を含む）、内容不一致。 内容説明では、薬学部でも出題された zero-sum に関するものが出題されている。	標準
II	読解総合	「食品ロスを減らすための取り組み」 (868 words)	空所補充、同意表現選択、内容一致（要約を含む）、内容不一致。 設問の選択肢を味方につけながら、食品ロスの現状や削減方法を理解していくとよいだろう。	やや難
III	読解総合	「インフレを引き起こす複合的要因ならびに解決策」(790 words)	空所補充、内容一致（推論を含む）、内容不一致、タイトル選択。 米国経済の現状についての知識があれば理解しやすいだろうが、正解を決めるのに苦勞する設問がある。	やや難
IV	文法・語法	空所補充	動詞の語法や時制に関するものが目立つ。「…するとすぐに～」の倒置構文が2問出題されている。	標準
V	その他	中文空所補充	英文中の6つの空所に入る適切な単語を選択する。 空所(38)の actors は「(活動などの) 関係者、当事者」という意味でつかわれている。	標準
VI	その他	中文内容一致	10行程度の4つの文章を読んで、そこから推測できる内容などを選択する。例年、選択肢に紛らわしいものが含まれており、正解を決めるのに苦勞する。	やや難
VII	その他	中文空所補充（記述）	英文中の5つの空所に、与えられた5つの動詞を必要に応じて語形を変えて補充する。語形を変える際には、時制や態のほかにも共通関係にも注意する。	標準
VIII	その他	中文空所補充（記述）	英文中の6つの空所に、与えられた6つの動詞を適切な名詞にして補充する。名詞形の選択のほかにも単数・複数の扱いにも注意する。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本文は比較的読みやすく、設問も素直なものが多いので、基本的な読解力をつけるように学習すれば十分に対応できるレベルである。文法・語法問題も、極端に難しい問題は出題されないため、過去問や問題集を利用して頻出事項を押さえておくとよい。動詞関連の出題が多いので、動詞の語法には注意を払う必要がある。例年、記述式の語彙問題が出題されるので、単語は正しくつづけるように練習することも大切である。